

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

11月10日発行

第9号

文責 中野善文



『煌星』のごとくキラキラと ～1人1人が輝きを放った40周年文化祭～

「霜月」という名の通り、昨朝は車のフロントガラスに霜が降り、外気温は「-1℃」を示しました。寒暖の差が大きい日が続いていますので、体調管理に気をつけていきましょう。県内でも、インフルエンザで休校となった学校がいくつか出ています。

さて、先月10月21日に実施した文化祭は、創立40周年の記念ステージでしたが、どの発表（わたしの主張、英語弁論、合唱、演劇）もレベルが高く、1人1人が「煌星」のごとく輝く素晴らしい文化祭となりました。発表のほとんどが総合的な学習の時間「地域学」で育んだ「故郷を大切にする思い」を含めた内容で、地域の方々の心に響く発表でした。



これら素晴らしい発表の中でも、特に観覧者の心に響いたのが「未来ビジョン・ヤマガタ」（演劇）でした。地域学で学習した「闘牛大会」と「山形ビジョン」を題材に、山形町の様々な魅力と課題、これからの山形町について自分たちが考え支えていくという熱い思いを届けました。文化祭終了後、当日参観された来賓、闘牛大会関係者、おらほーる劇場関係者の方々が私のもとに中学生への賛辞と感謝の気持ちを届けてくださいました。昨年度までPTA会長を務められた木地谷さんからは、「山中史上最高の演劇」との評価をいただきました。この演劇を通して、来る11月24日（金）に開催される岩手県中学校総合文化祭では、県内各地から集まる中学生に「故郷を愛し、故郷のこれからを支えていこう」というメッセージが心に届くことを願っています。なお、当日は保護者の観覧も自由となっております。

【保護者の方の感想を紹介します。「ありがとう」「お疲れ様」「もっと頑張るって」】

今年の山中文化祭も大変楽しく見させていただきました。英語暗唱やわたしの主張とどの発表も素晴らしかったです。各学年の合唱、どの学年もとてもよかったと思います。3年生の合唱は、全員が楽しそうに歌っていて感激しました。全校の皆さんの頑張りが伝わってきて、とても素晴らしい合唱でした。来年度以降も頑張るって素晴らしい文化祭にしてください。

この他にも、「常勤の音楽科がない中でよく合唱を頑張った」、「今後も合唱を大事にしてほしい」という感想が多く寄せられました。

山形にまつわる劇は、思わず見入ってしまいました。途中の時間ロスもなくスムーズに最後まで演じられたように思います。県中文祭に向けて修正し、当日は久慈地区代表として堂々と披露してきてください。子供の成長を感じる時間でした。先生方も多忙の中、お疲れ様でした。

一生懸命に役を演じている姿を見ると、普段から何事も真面目に中学校生活を送っていると感じました。ユニークがあり、感動する場面もあり、とても楽しい劇でした。合唱も劇もとても感激し、楽しく見させていただきました。先生方、子供達には感謝とありがとうございます。

心に響く合唱にドラマあり♪

教員生活を振り返ったときに、忘れられない歌というものがいくつかあります。

1年生が歌った「翼をください」、2年生が歌った「栄光の架橋」、どちらもかつて教え子が歌った曲で文化祭当日の発表を聞いて胸がジーンとしました。

そして、3年生が歌った「Oh Happy Day」は観客を魅了するとともに、間違いなくわたしの記憶に刻まれる思い出の一曲となりました。

上手な合唱はたくさん聞いてきました。しかし、記憶に刻まれる歌は特別で、そこには必ずドラマがあります。

今年度は常勤の音楽科がないため、残念ながら専門的な指導ができませんでした。それでも生徒たちは、先輩が築いてきた伝統を繋ぐために学習・合唱委員会が中心となって練習に励みました。合唱委員長の真緒さん、そしてパートリーダーの3年生の皆さんは大変だったと思います。その練習の積み重ねが全校の心をひとつにし、当日は素敵な歌声を響かせました。涙しながら全校をリードした生徒の頑張りを思うと目頭が熱くなりました。全員が主役の素敵な合唱でした。



多くの人から愛された横綱「白樺王」

市内の保育園長さんから、今回の演劇の大事な役どころである白樺王が多くの市民の方から愛された横綱であったことを力説されました。そこで、もっと白樺王について調べようと思い山形総合支所の新井谷さん（平庭べごっこ倶楽部代表）から話を伺いました。



白樺王は、平成20年に戸呂町の下館畜産で生まれ、翌年の秋に久慈市役所職員有志で構成する「平庭べごっこ倶楽部」が購入し共同の所有牛となりました。素質を見込まれた白樺王は、後に何度も譲ってほしいという要望が他県からあったそうですが、地元のために断ったそうです。

2歳になった平成22年6月のつつじ場所でデビューし、若い時期は派手さはないものの相手の攻撃をしっかりと受け止め絶対に逃げないという典型的な「受け牛」の型をこの時期に固めました。

4～5歳期には、相手の牛との駆け引きが上手になり、同年代の牛の中でもトップクラスになり、平成26年に6歳という史上最年少の若さで横綱に昇進しました。昇進後は、数々の牛の挑戦を受け、特徴である「受け」からの切り返しの速さに磨きをかけました。

白樺王の良さは「優しさ」という特徴もあり、相手を徹底的に追い詰めないところや、戦いを終わると気性がおとなしく人に優しいところも多くのファンに愛された所以（ゆえん）です。

白樺王の晩年は、力の衰えも自覚し、若いときにはあまり見せなかった自分から仕掛けて取組を早く終わらせる場面も見られました。その一方で、横綱の迫力に飛び込んでいけない牛がいるなど、最後まで横綱としての威厳と風格を見せてくれました。

平庭闘牛の横綱として9年間(27場所)君臨し続けたことも、闘牛の歴史としては最長であり、その記録を塗り替える牛は今後出てこないと思われます。

令和5年6月引退セレモニーの日。体力的な問題から一番最初に土俵入りをしました。土俵を半分回ったところで白樺王が立ち止まりました…。いつもの位置で相手の牛が入ってくるのを待っていたのでしょう。相手の牛は入ってきません。その瞬間がたまらなく切なかったです。

満員の観客から惜しめない拍手をいただき、白樺王は平庭闘牛場を後にしました。

多くの皆さんに愛され、闘牛ファンを魅了し続けた名牛白樺王。このような牛に巡り合えたことに感謝しかありません。

山形中学校のみなさんには、白樺王を劇中に登場させていただき、本当に感動しました。ありがとうございました。「やまがたビジョン」を達成していくためには、皆さんの力が必要です。

これからも「ふるさと愛」を大事にしていきましょう。(平庭べごっこ倶楽部 新井谷)